

概要

1711年に初演された《リナルド》は、ヘンデルがロンドンで発表した最初のイタリア・オペラで、大成功を収め、初演の前日に26歳の誕生日を迎えた若きヘンデルの名声を確立した傑作である。ロンドンの劇場で上演された、初の本格的なイタリア・オペラでもある。

原作は、ルネッサンス・イタリア文学を代表するトルクアート・タツの『解放されたエルサレム』(1581)。イスラム教徒の占領下にあった聖地エルサレムを奪回してヨーロッパを熱狂させた「第一次十字軍」(1096-1099)に基づいた、幻想的な一大叙事詩だ。『解放されたエルサレム』は大ベストセラーになり、絵画からオペラまで多くの芸術作品の題材になったが、魔女アルミーダが十字軍の勇士リナルドを誘惑するエピソードは特に人気があった。

この題材を提案したのは、ヘンデルに作曲を依頼した女王劇場の支配人アーロン・ヒルである。ヒルは台本の原案も自分で書き、イタリア語台本の作成をジャコモ・ロッシに頼んだ。ヒルはタツの原作をかなり自由に書き換え、リナルドの恋人アルミレーナを創造したり(有名なアリア「涙の流れるままに」は、アルミレーナがアルガンテに迫られて歌うアリアである)、結末にアルガンテとアルミーダの改宗シーンを加えるなどして物語を盛り上げている。ヘンデルはわずか二週間で作曲を終えたが、それはこれまで書きためた音楽をかなりの部分に転用したためでもあった。

《リナルド》は、「魔法オペラ」に分類されるエンタテインメントだが、同時に「時事もの」でもある。当時のイタリア・オペラは、はるか昔の物語を扱いながら作曲当時の情勢を暗示することがよくあった。ヘンデルは当時ドイツのハノーヴァーの宮廷楽長だったが、彼の雇い主であるハノーヴァー選帝侯ゲオルク1世は、母方の血筋によりイギリスの王位継承権を持っており、アン女王(在位1707-1714)の次のイギリス国王に即位することが確実視されていた。ヘンデルはゲオルクI世の意を受けて、現地の状況を偵察するためにロンドンに乗り込んだ可能性が高い。一説によると《リナルド》の主人公は、混乱しているイギリスの救世主となるだろう「ジョージ(「ゲオルク」の英語読み)I世」の暗喩だという。そのことを頭の隅に置いて鑑賞するのも、なかなか乙なのではないだろうか。

あらすじ

第1幕

1099年。総司令官のゴツフレードに率いられた第一次十字軍が、エルサレムの街を包圍している。十字軍の戦士リナルドは、ゴツフレードの娘アルミレーナと愛し合っていた。ゴツフレードは、エルサレムが陥落したら二人の結婚を許すと約束する。

エルサレムの王アルガンテの申し出で、3日間の休戦が取られることになった。アルガンテの恋人で魔女のアルミーダは、勇敢なりナルドがいなくなれば勝てると考え、まずアルミレーナを誘拐する。リナルドは、ゴツフレードとその弟のエウスタツィオと連れ立って、アルミレーナを救う方法を教えてくれるという魔法使いのところへ旅立つのだった。

第2幕

リナルドは、魔法使いのところへ向かう途中に通りがかった海岸で、彼を狙っていたアルミーダの魔法にかかり、連れ去られてしまう。

アルミレーナは、アルミーダの魔法の庭に囚われていた。彼女の美しさに魅せられたアルガンテはアルミレーナに迫り、アルミレーナは我が身を曝く。一方アルミーダは凛々しいリナルドに夢中になり、アルミレーナに姿を変えてリナルドを誘惑する。アルガンテは変身しているアルミーダをアルミレーナだと思って口説き、アルミーダを怒らせてしまう。

第3幕

リナルドを失ったゴツフレードとエウスタツィオは、岩山の麓にある魔法使いの洞窟にたどり着く。魔法使いは二人に岩山を登るよう命じるが、魔物たちが邪魔をする。魔法使いは二人に魔法の杖を与え、魔物を退治させる。岩山の頂上には、アルミーダの魔法の庭があった。二人はアルミレーナとリナルドを助け出し、魔法の杖を振って魔法の庭を消してしまう。ゴツフレードはリナルドとエウスタツィオに、エルサレムの総攻撃を命じる。

エルサレムは陥落した。リナルドとアルミレーナは喜びのうちに結ばれ、捕らえられたアルガンテとアルミーダはキリスト教に改宗する。

ヘンデルについて

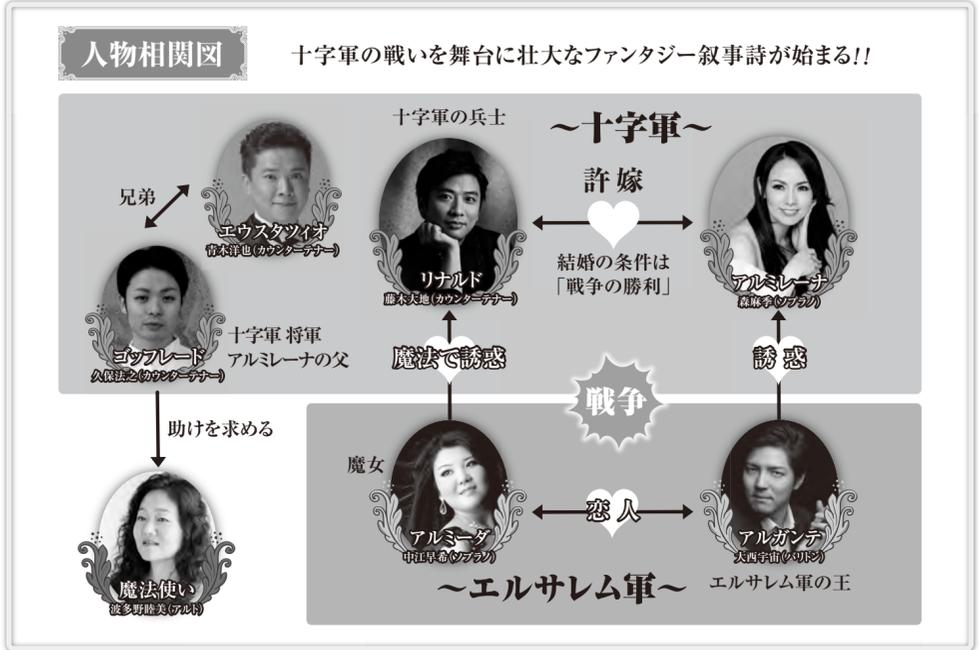
ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル(1685-1759)は、バロック時代後期を代表する作曲家。あらゆるジャンルに作品を残したが、とりわけオペラ、オラトリオの分野で、甘く官能的かつ劇的華麗な音楽を駆使して人間味溢れる音楽ドラマを描いた。劇場プロデューサーや外交官としても活躍した、18世紀前半を代表する有名人、マルチタレントでもある。

生まれはドイツのハレ。ちなみにあのヨハン・セバスティアン・バッハ(1685-1750)は同じ歳で、生まれ故郷もそう遠くないが、二人の人生は対照的だ。バッハが教会音楽を生業とする音楽職人の子で、生涯その仕事を守ったのに対し、宮廷外科医の息子だったヘンデルは自由人で、国境を超えて活動した。バッハは20人の子供を遺した家庭人だったが、ヘンデルは結婚すらしなかった。

最初の音楽修業はハンブルクの歌劇場。19歳でイタリアに渡り、各地を回る。1709年、オペラ《アグリッピーナ》がヴェネツィアで大成功。ハノーヴァーの宮廷楽長に招かれるが、おそらく次期イギリス国王に内定していたハノーヴァーの選帝侯からの依頼で、現地の様子を探る意図もあってロンドンに渡った。1711年、ロンドンにおける最初のオペラ《リナルド》が大成功を収める。オラトリオ《メサイア》、オーケストラ曲《水上の音楽》など名曲をあまた発表して音楽家としての名声を確立。王室関係者や貴族とも親しく交わった。

1727年にイギリスに帰化し、「ジョージ・フレデリック・ハンデル」となる(そのためいまだにドイツ人もイギリス人も、ヘンデル=ハンデルは自分の国の偉人だと主張する)。晩年は失明や脳疾患に苦しみ、74歳で没。イギリスの名士の霊廟であるウェストミンスター寺院に葬られた。死後も名声は衰えず、ベートーヴェンから崇拜され、19世紀の合唱運動でも大きな役割を果たした。オペラはこの半世紀余りで再発見が進んでいる。

(加藤浩子)



バッハ・コレギウム・ジャパン 今後の公演情報

ベートーヴェン: 「運命」とハ長調ミサ曲

11月28日(土) 15:00 東京オペラシティ コンサートホール

11月29日(日) 15:00 彩の国さいたま芸術劇場

鈴木雅明(指揮) バッハ・コレギウム・ジャパン(合唱・管弦楽)

創立30周年記念演奏会 (第138回定期演奏会 / 5月 延期公演)

12月16日(水) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール

J.S.バッハ: カンタータ第78番、《マニフィカト》BWV 243 他

鈴木優人(指揮) バッハ・コレギウム・ジャパン(合唱・管弦楽)

クリスマス・キャロル & オルガンコンサート

12月19日(土) 15:00 軽井沢大賀ホール

鈴木優人(指揮・オルガンソロ) バッハ・コレギウム・ジャパン(合唱)

ヘンデル: メサイア

12月24日(木) 18:30 サントリーホール

鈴木雅明(指揮) バッハ・コレギウム・ジャパン(合唱・管弦楽)

【お問合わせ】

バッハ・コレギウム・ジャパン・チケットセンター 03-5301-0950(12/19 除く)

軽井沢大賀ホールチケットサービス 0267-31-5555

鈴木優人プロデュース／BCJオペラシリーズ Vol. 2



ヘンデル 歌劇《リナルド》

セミ・ステージ形式

Georg Friedrich Händel: Rinaldo

2020年11月3日(火・祝) 16:00開演
東京オペラシティ コンサートホール

4:00p. m., Tuesday, November 3, 2020 at Tokyo Opera City Concert Hall

主催: JAPAN ARTS ジャパンアーツ

パッハ・コレギウム・ジャパン

BACH COLLEGIUM JAPAN

共催: 公益財団法人東京オペラシティ文化財団

助成: 文芸春秋

文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

《リナルド》上演に寄せて

ヘンデルが満を持してやってきた新天地ロンドンで意気揚々と書いたのが、大作《リナルド》。バッハ・コレギウム・ジャパンとともにお贈りするオペラシリーズの第二弾としてこの傑作を上演できることに心から喜びを感じます。

ドイツ生まれのヘンデルですが、イタリアの様式と歌手をイギリスへ持ち込み、まさに一世を風靡する活躍を見せていました。それはかのグルックがロンドンへ来ても霞んでしまうほどだったとも伝えられています。その大活躍の原点となったのがこのオペラ。十字軍の時代を題材にした大きな歴史のスペクタクルと、コミカルで他愛もないラブストーリーの mismatch が最高に楽しいエンターテインメントです。異国の地において外国語で歌われるオペラであってもこれほど愛されたわけですから、日本においてオペラを上演する原動力をくれるような作品でもあります。

カストラートの時代だけあって、今日はカウンターテナーが大活躍！特に主役リナルド、將軍ゴッフレード、弟エウスタツィオのカウンターテナー三人組は、大暴れしたり右往左往したりと、なんとも愉快な存在です。さらに美女アルミレーナと、彼女に嫉妬の姿を燃やすアルミーダという二人のソプラノ同士に散る火花は、十字軍の戦いよりも激しく描かれているかもしれません。ほぼ唯一の男声、エルサレムの王ルミダンはトランペットを従えて華やかな音楽を歌います。

当時のロンドンの劇場では、「推し」の歌手への喝采合戦で喧嘩もしばしば起きていたとか。歌手の魅力を最大限に引き出すヘンデルの魔法のような筆のなせる技です。

前回の《ボッペアの戴冠》でも大活躍したキャストが再集結した上に、さらに素晴らしい仲間が加わって、入国制限による変更にもかかわらず刺激的なチームが生まれました。演出の砂川真緒さん、ドラマトゥルクの菅尾友さんのお力も借りて、目も耳も手をかくような楽しいステージをお届けしたいと思います。

それではご一緒に、古の時代のファンタジーへ出発することといたしましょう！

鈴木 優人

ヘンデル： **歌劇《リナルド》**（セミ・ステージ形式）

Georg Friedrich Händel: Rinaldo

（HWV7a 1711年版／全3幕／イタリア語上演・日本語字幕）

演出： 砂川 真緒 <i>Stage Director: Mao Sunakawa</i>	指揮・チェンバロ： 鈴木 優人 <i>Conductor and Harpsichord: Masato Suzuki</i>	舞台監督助手： 小田原 築 吉岡 絵梨花 蒲倉 潤
衣裳コーディネイト： 武田 園子 <i>Costume Coordination: Sonoko Takeda</i>	リナルド： 藤木 大地 <i>Rinaldo: Daichi Fujiki</i>	<i>Assistant Stage Manager: Kizuku Odahara</i> <i>Erika Yoshioka</i> <i>Jan Kakakura</i>
照明： 稲葉 直人 <i>Stage Lighting: Naoto Inaba</i>	アルミレーナ： 森 麻季 <i>Almirena: Maki Mori</i>	小道具・観物： アートクリエイション <i>Stage Properties: Art Creation</i>
舞台監督： 幸泉 浩司 <i>Stage Manager: Hiroshi Koizumi</i>	アルミーダ： 中江 早希 <i>Armida: Saki Nakae</i>	照明操作： A.S.G <i>Lighting Operation: A.S.G</i>
演出助手： 水野 明人 <i>Assistant Stage Director: Akibito Mizuno</i>	ゴッフレード： 久保 法之 <i>Goffredo: Noriyuki Kubo</i>	衣裳操作： 金 千恵子 <i>Costume Operation: Chieko Kon</i>
ドラマトゥルク： 菅尾 友 <i>Dramaturg: Tomo Sugao</i>	エウスタツィオ： 青木 洋也 <i>Eustazio: Hiroya Aoki</i>	ヘア・メイク： 合田 和人 吉池 アサノ 平塚 淳子
副指揮： 平野 桂子 <i>Assistant Conductor: Keiko Hirano</i>	魔法使い： 波多野 睦美 <i>Mago Cristiano: Mutsumi Hatano</i>	<i>Hair and Makeup: Kazuhito Goda</i> <i>Asano Yoshike</i> <i>Junko Hiratsuka</i>
	アルガンテ： 大西 宇宙 <i>Argante: Takaaki Onishi</i>	字幕翻訳： 河村 泰子 <i>Subtitle Translation: Yasuko Kawamura</i>
	使者： 谷口 洋介 <i>Araldo: Yosuke Taniguchi</i>	字幕操作： Zimaku+ <i>Subtltle Operation: Zimaku+</i>
	セイレーン(人魚たち)： 松井 亜希 澤江 衣里	オーケストラ ステージマネージャー： 岩崎 尚人 <i>Orchestra Manager: Hsato Inasaki</i>
	<i>Due Sirene: Aki Matsui</i> <i>Eri Sawae</i>	オーケストラ アシスタントステージマネージャー： 杉浦 友彦 <i>Assistant Orchestra Manager: Tomohiko Sugura</i>
	管弦楽： バッハ・コレギウム・ジャパン <i>Orchestra: Bach Collegium Japan</i>	調律： 林 彰見 <i>Tuner: Akimi Hayashi</i>

Profile



© Marco Borggreve



© Yuji Hori

東京藝術大学、同大学院、文化庁オペラ

研修所修了後、ミラノとミュンヘンに留学。P.ドミンゴ世界オペラコンクールをはじめ、多数の国際コンクールに上位入賞。ワシントン・ナショナル・オペラでアメリカ・デビュー。国内外の著名指揮者および主要オーケストラとの共演に加え、ドレスデン国立歌劇場《ばらの騎士》、トリノ王立歌劇場《ラ・ボエーム》に出演

を重ねて、国際的な評価を高める。2015年兵庫オペラ《椿姫》、2017年BCJ歌劇《ボッペアの戴冠》でタイトルロールを好演。日本を代表するオペラ歌手として常に注目を浴びる。デビュー20周年記念アルバム「至福の時」をリリース（エイベックス・クラシックス）。ワシントン・アワード、五島記念文化賞、出光音楽賞、ホテルオークラ賞受賞。

Twitter: @makimori_sop

バッハ・コレギウム・ジャパン *Bach Collegium Japan*



© teamMura

フラジオレット <i>Flageolet</i> 水内 謙一 <i>Kenichi Mizuuchi</i>	ティンパニ & パーカッション <i>Timpani/Percussion</i> 菅原 淳 <i>Atsushi Sugahara</i>
リコーダー <i>Recorder</i> 水内 謙一 <i>Kenichi Mizuuchi</i> 向江 昭雅 <i>Akimasa Mukae</i> 三宮 正満 <i>Masamitsu San'nomiya</i>	ヴァイオリン I <i>Violin I</i> 若松 夏美 <i>Natsumi Wakamatsu</i> 荒木 優子 <i>Yuko Araki</i> 原田 陽 <i>Akira Harada</i>
オーボエ <i>Oboe</i> 三宮 正満 <i>Masamitsu San'nomiya</i> 荒井 豪 <i>Go Arai</i>	ヴァイオリン II <i>Violin II</i> 高田 あずみ <i>Azumi Takada</i> 高橋 奈緒 <i>Nao Takahashi</i> 山内 彩香 <i>Ayaka Yamauchi</i>

トランペット <i>Trumpet</i> 斎藤 秀範 <i>Hidenori Saito</i> 大西 敏幸 <i>Toshiyuki Onishi</i> 杉村 智大 <i>Tomohiro Sugimura</i> 霧生 貴之 <i>Takayuki Kiryu</i>	ヴィオラ <i>Viola</i> 成田 寛 <i>Hiroshi Narita</i> 秋葉 美佳 <i>Mika Akiba</i>
--	--

鈴木 優人 (指揮・チェンバロ) *Masato Suzuki, Conductor and Harpsichord*

東京藝術大学及び同大学院修了。オランダ・ハーグ王立音楽院修了。第18回齋藤秀雄メモリアル基金、第18回ホテルオークラ音楽賞受賞。バッハ・コレギウム・ジャパン (BCJ) 首席指揮者、読売日本交響楽団指揮者／クリエイティブ・パートナー、アンサンブル・ジュネシス音楽監督。指揮者としてNHK交響楽団、読売日本交響楽団、シンガポール交響楽団、エンシェント室内管弦楽団等と共演。2017年のモンテヴェルディ：歌劇《ボッペアの戴冠》では、バロック・オペラの新機軸として高い評価を得た。鍵盤奏者としてもA.タメスティ(ヴィオラ)との欧米におけるデュオ・リサイタルなど幅広く活躍中。NHK-FM「古楽の楽しみ」レギュラー出演。調布国際音楽祭エグゼクティブ・プロデューサー。九州大学客員教授。Twitter: @eugenesuzuki Facebook & Instagram: masatosuzukimusic

森 麻季(ソプラノ)

Maki Mori, Soprano

東京藝術大学、同大学院、文化庁オペラ研修所修了後、ミラノとミュンヘンに留学。P.ドミンゴ世界オペラコンクールをはじめ、多数の国際コンクールに上位入賞。ワシントン・ナショナル・オペラでアメリカ・デビュー。国内外の著名指揮者および主要オーケストラとの共演に加え、ドレスデン国立歌劇場《ばらの騎士》、トリノ王立歌劇場《ラ・ボエーム》に出演

を重ねて、国際的な評価を高める。2015年兵庫オペラ《椿姫》、2017年BCJ歌劇《ボッペアの戴冠》でタイトルロールを好演。日本を代表するオペラ歌手として常に注目を浴びる。デビュー20周年記念アルバム「至福の時」をリリース（エイベックス・クラシックス）。ワシントン・アワード、五島記念文化賞、出光音楽賞、ホテルオークラ賞受賞。

Twitter: @makimori_sop



© himonasa

藤木 大地(カウンターテナー)

Daichi Fujiki, Countertenor

2017年、オペラの殿堂・ウィーン国立歌劇場に東洋人のカウンターテナーとして史上初めてデビューを飾る。2012年、日本音楽コンクール声楽部門にてカウンターテナーで初の第1位を受賞。2013年、ポロニヤ歌劇場にてヨーロッパデビュー。国内外の主要オーケストラとの公演や各地でのリサイタルがいずれも絶賛を博している。2017年、ファーストアルバム「死んだ男の残したものは」(キングインターナショナル)をリリース。2018年にはメジャー・デビュー・アルバム「愛のよこびは」(ワーナーミュージック・ジャパン)を発表。バロックからコンテンポラリーまで幅広いレパートリーで活動を展開する、日本で最も注目される国際的なアーティストのひとりである。洗足学園音楽大学客員教授。https://www.daichifujiki.com

鈴木雅明がオリジナル楽器のスペシャリストを擁し結成したオーケストラと合唱団。バッハ等バロック音楽作品を中心に、日本国内のみならずライプツィヒ・バッハ音楽祭、BBCプロムス、カーネギーホール、コンサートヘボウ等、活発な演奏活動を展開。1995年から開始した「バッハ：教会カンターテ全曲シリーズ」が2013年に、17年には「バッハ：世俗カンタータシリーズ」全曲演奏・録音が完結。2020年、創立30周年を迎えた。

チェロ <i>Violoncello</i> 山本 徹 <i>Toru Yamamoto</i>	コントラバス <i>Contrabass</i> 西山 真二 <i>Shinji Nishiyama</i>
ファゴット <i>Bassoon</i> 村上 由紀子 <i>Yukiko Murakami</i>	チェンバロ <i>Harpsichord</i> 大塚 直哉 <i>Naoya Otsuka</i>
リュート <i>Lute</i> 野入 志津子 <i>Shizuko Noiri</i>	



中江早希(ソプラノ)

Saki Nakae, Soprano

北海道出身。北海道教育大学岩見沢校芸術課程音楽コース声楽専攻卒業。東京藝術大学修士課程音楽専攻卒業。東京藝術大学修士課程音楽専攻専攻唱科、同大学院博士後期課程を修了。在学時、大学院アカンサス賞、三菱地所賞受賞。第14回日本モーツァルト音楽コンクール声楽部門第2位。第78回日本音楽コンクールオペラ部門にて入選。第12回中田喜直記念コンクールにて大賞を受賞。第25回ハイメス音楽コンクールにて声楽部門第1位。第3回ジュリアード音楽院コンクール第1位。第11回東京音楽コンクール声楽部門第3位。旭川新人音楽賞、第27回道銀芸術文化奨励賞受賞。宗教音楽からオペラ、現代音楽まで幅広い演奏活動をしていて、2019年から北海道上川郡鷹栖町ふるさと大使としても活動をしている。



© Toshiyuki Kohno

英国トリニティ音楽大学声楽専攻科修了。シェイクスピア時代のリュートソングでデビュー。バッハ、ヘンデルの宗教曲、オラトリオのソリストとして鈴木雅明、C.ホグウッド指揮者の多くのバロックオーケストラと共演。オペラではモンテヴェルディ《ボッペアの戴冠》、パーセル《デイドとエneas》、モーツァルト《イドメネオ》他に出演。関宮芳生作品の米国での世界初演、水戸芸術館「高橋悠治の肖像」など現代の作品にも積極的に取り組む。放送では「BSクラシック倶楽部」「NHKニューイヤーオペラ」他。CDは古楽器との共演作品の他、高橋悠治とシューベルト「冬の旅」、柳尾克樹(sax)とのトリオ「風ぐるま」、大萩康司(G)と「プラテロとわたし」他多数。



松井亜希(ソプラノ) *Aki Matsui, Soprano*

岩手県出身。東京藝術大学声楽科卒業、同大学院修士課程・博士課程を修了。アールンクの歌曲作品研究で博士号取得。在学中に日仏声楽コンクール優勝、日本ドイツ歌コンクール優勝、日本音楽コンクール入選。バロックから現代まで広範なレパートリーで活動しているが、近年はBCJのソリストとして数多くの国内外の公演および録音に参加し、高い評価を得ている。中でも2020年3月ケルンでの「ヨハネ受難曲」の歌唱は絶賛された。東京オペラシティ・リサイタルシリーズ「BーC」、NHKクラシック倶楽部、リサイタル・ノヴァ出演。東京藝術大学音楽学部非常勤講師。



澤江衣里(ソプラノ) *Eri Sawae, Soprano*

東京藝術大学大学院修士課程及び博士課程修了。英国歌曲研究により博士号取得。日本学術振興会より奨学金を得て、ロンドンに短期留学。日本音楽コンクール等において上位入賞。2006年よりBCJのソリストおよび声楽メンバーとして活躍。「ロ短調 ミサ曲」、「ドイツ・レクイエム」、「カルミナ・ブラーナ」や「メサイア」など多数の作品でソプラノソロを務める。しなやかで温かみのある歌声を生かした歌唱で様々なレパートリーを持つ。NHKテレビ番組「名曲アルバム」でのバッハのアリアの演奏や、NHK-FM「リサイタル・ノヴァ」に出演、好評を得た。東京藝術大学附属音楽高等学校非常勤講師。



© Isao Toyoda

砂川真緒(演出) *Mao Sunakawa, Stage Director*

東京都生まれ。7歳から10年間、NHK東京児童合唱団所属。19歳から大手テーマパークのショースタッフとして5年間運営に携わり、舞台演出・演出助手としても国内外で活動。主な演出・参加作品に、せたがや文化財団《ラ・ボエーム》、名古屋市文化振興事業団《ランスへの旅》、

洗足音楽大学《ヘンゼルとグレーテル》(演出助手)、フェニーチェ劇場《まほうのふえ》(演出助手、日本語歌詞作成)。他に、ショー開発、オペラ公演の字幕作成、コンサート構成も務める。今後ロンドンOpera Holland Parkにて研修予定。



久保法之(カウンターテナー)

Noriyuki Kubo, Countertenor

鹿児島県出身。鹿児島県立松陽高等学校音楽科ピアノ科を卒業後、東京藝術大学声楽科、同大学院修士課程声楽唱科を修了。藝大在学中、武藤舞賞、松田トシ貴、アカンサス音楽賞、同声会賞を受賞し、第83回読売新人演奏会に出演、2014年にはモントリオール国際声楽祭(カナダ)に招致された。宗教曲では、バッハ「ヨハネ受難曲」、シェツツ「クリスマスオラトリオ」等でソリストを務める他、オペラでは、モンテヴェルディ《ウリッセの帰還》、ヘンデル《セルセ》等で主要な役を演じる。第8回横浜国際音楽コンクール第4位、17年レオポルド・ベラン国際コンクールセミ・ファイナリスト(パリ)、15年フラム国際コンクールファイナリスト(パリ)。



青木洋也(カウンターテナー)

Hiroya Aoki, Countertenor

東京藝術大学大学院で古楽演奏、エリザベト音楽大学で宗教音楽を学ぶ。ダブリンおよびリストでの「メサイア」、ライプツィヒ・ニコライ教会での「ミサ曲 口短調」、「クリスマス・オラトリオ」ソリストに抜かれ好評を博す。バッハの「マタイ」「ヨハネ」の両受難曲やカンタータ等の独唱を務め、BCJ)ではライプツィヒ・バッハ音楽祭での「マタイ」独唱等で喝采を浴びた。近年は指揮者としても高く評価されている。「パーセル・プロジェクト」代表。ソノCは現在までに「トスティを歌う〜英語による歌曲を集めて〜」など5枚をリリースしており、レコード芸術特選盤に選ばれるなどいづれも好評を得ている。



谷口洋介(テノール) *Yosuke Taniguchi, Tenor*

国立音楽大学声楽科卒業。声楽を宮崎義昭、中村健、大石正治の諸氏に師事。オペラ歌唱をセゾ・タナカに師事。古楽歌唱をジョン・エルウイス、ゲルト・テュルクの諸氏に師事。1998年以來、鈴木雅明主宰のBCJのメンバーとして国内外の数多くの演奏会やCD録音に参加し、現在もソリストおよびコーラス主要メンバーとして活躍中。1999年、クラウディオ・モンテヴェルディ作曲「聖母マリアの夕べの祈り」でソリストデビュー。J.S.バッハやヘンデル、ハイドンやモーツァルトの諸作品等、バロックから古典派のレパートリーを中心に歌唱力と表現力ともに定評がある。その他、鈴木美登里主宰の声楽アンサンブル「ラ・フォンテヴェルデ」のメンバー。



© Simon Pfauly

2020年には《道化師》(シルヴィオ役)に出演し絶賛された。また、2019年2月にはカーネギーホールにてニューヨーク・オラトリオ協会主催のシベリウス「クレヴオ」交響曲のソリストを務め、2020年3月には「ドイツ・レクイエム」で出演。今後も国内外での活躍が期待される。



© 松井聖人

菅尾友(ドラマトゥルク) *Tomo Sugao, Dramaturg*

フリーの演出家としてドイツを中心にヨーロッパとアジア各地の舞台で活動中。08年文化庁新進芸術家海外研修制度派遣、13年第24回五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。2018年ドイツ・ヴェルツブルク歌劇場にて演出した《ニコソフ・イン・チャイナ》が、バイエルン放送(Bayerischer Rundfunk / BR)が発表する年間ベスト10プロダクションに、また2019年の《神々の黄昏》が同BR「最優秀オペラ演出―バイエルン州特選3作品」に選出されている。